

新島襄の夢と同志社大学テュービンゲンE Uキャンパス

奨励	和田 喜彦〔わだ・よしひこ〕
奨励者紹介	E Uキャンパス支援室長・経済学部教授

兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

(ガラテヤの信徒への手紙 5章13—14節)

はじめに

同志社創立148周年を記念するこの大切な同志社スピリット・ウィーク2023のチャペル・アワーで、このような小さな者が話をするをお許しくださった神様に感謝します。段取りを整えてくださったキリスト教文化センターの村上みか所長、越川弘英先生、森田喜基先生、職員、学生スタッフの皆様にお礼を申し上げます。

世界に目を向けるとウクライナとロシア、パレスチナガザ地区とイスラエルの間の戦争のみならず Sudan、Congo などの紛争地で人々が理不尽な理由で殺害されている現実があります。ガザ地区では1万2000人を超える人が1か月半の間に殺され、その半分が子供です。国連職員も多数殺されたと聞き、この殺戮(さつりく)行為は、人道に対する罪だと確信しました。それぞれの地で、一秒でも早く停戦してくれることを祈ります。その祈りを込めて、最初の賛美歌を『讃美歌21』から561番「平和を求めて」とさせていただきます。

私は、2018年度よりE Uキャンパス支援室長を拝命し、いろいろな不思議な体験をさせていただきましたので、本日はそのことを皆さんとシェアさせていただきます。

同志社初の海外キャンパス 同志社大学テュービンゲンE Uキャンパス

本日のタイトルにあります、同志社大学テュービンゲンE Uキャンパス。略称は「同志社E Uキャンパス」、または、「E Uキャンパス」です。このキャンパスは同志社始めて以来の初めての「海外キャンパス」として、今から6年前の2017年度に産声を上げました。初めての海外キャンパスと申しましたが、これまでも同志社には海外拠点(海外事務所)は存在してましたし、現在も台湾・台北事務所、ソウル事務所などがあります。しかし、これらは、同志社に入学を希望する受験生への情報提供を行ったり、入学試験を実施したり、卒業されたOB・OGの皆さんの交流活動などを目的としています。したがって、本学の学生や教職員が滞在し、授業や研究活動が行われている訳ではありません。一方、E Uキャンパスでは、本学の学生と教職員が滞在し、年間を通じて教育活動と研究活動が展開されています。海外事務所との違いはここにあります。

現時点で(2023年度の秋学期)、E Uキャンパスには15名の学生さんが派遣され、ヨーロッパ・スタディーズE Uキャンパスプログラムが走っています。今、ここにおられるキリスト教文化センター所長の村上みか先生も11月初めにテュービンゲンに渡り、約1週間にわたり集中講義をされて帰国されたばかりです。ヨーロッパの宗教という科目を担当いただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

今年の春学期には、ドイツ語・異文化理解E Uキャンパスプログラムの3期生12名が派遣されていました。こちらのプログラムはドイツ語を銀えドイツと欧州という異文化社会の理解を深めるためのプログラムです。

テュービンゲン市とテュービンゲン大学

E Uキャンパスが設置された場所は、ドイツの南西部にありますテュービンゲン大学の構内です。まず、テュービンゲン市、テュービンゲン大学について簡単にご紹介いたします。テュービンゲンはスイスにも近い位置にあり、またシュツットガルトという自動車産業の中心都市から電車で1時間ほどの距離にある学術研究都市です。フランクフルト、ミュンヘンからも高速鉄道で2時間半ほどです。人口は8万9千人。その3分の1の3万数千人がテュービンゲン大学の学生・大学院生・教職員ということで、知識人が多く集まる学術研究都市です。

テュービンゲン大学は、カール・エバーハルト伯爵によって創立されましたので、正式名は、エバーハルト・カール大学テュービンゲンと言います。テュービンゲン大学は1477年に設立されたドイツで最も歴史ある大学の一つです。ちなみに1477年は、日本では室町時代、応仁の乱が終わった年です。

テュービンゲン大学は546年の長い歴史の中で、多くの著名人を輩出してきました。著名な知識人として、古くは、数学者・天文学者のケプラー、ドイツ哲学の最高峰であるヘーゲルやシェリング、詩人のヘルダーリン、アルツハイマー病を命名した神経精神科医のアルツハイマー博士などです。また、DNAの発見でも有名な大学です。

ドイツのプロテスタント神学研究においても卓越しています。宗教改革の際にはルター派の拠点でした。最近では、20世紀最大のプロテスタント神学者とされるカール・バルトがテュービンゲン大学で学びました。

テュービンゲン大学は、2023年度の世界大学ランキング(Times Higher Education)では86位にランクインしました。東京大学や京都大学とほぼ同じランクです。ドイツの大学全体の質を向上させることを目的としたエクセレンス・イニシアティブにも選ばれ、まさに世界最高レベルの研究推進を担う、ドイツ屈指の総合大学です。

同志社E Uキャンパスが設置された背景と経緯

次にE Uキャンパス設立の経緯を説明いたします。

本学文学部文化史学科の服部伸先生がテュービンゲン大学日文学科のヴィクトリア・エシュバハハ=ザガ先生などとの研究交流を1980年代に開始しました。その他、人文・社会科学系の先生方の個人的な共同研究が続いていきます。

このような個人的な信頼関係が構築されていたことを背景として、両大学は1990年に学術交流協定を締結しました。その3年後、1993年にテュービンゲン大学はヨーロッパの大学初となる日本分校を同志社大学今出川校地内に設立しました。当時は、「テュービンゲン大学同志社日本語センター」と命名されましたが、現在は「テュービンゲン大学同志社日本研究センター」と改名されています(英語名がTübingen Center for Japanese Studies at Doshisha University。略して「TCJS」と呼ばれています)。1993年10月に第1回目の学生が来日し日本語と日本文化に関するプログラムが開始されました。現在、日文学科の2年次生の学生さんたち約20名が本センターに留学しています。TCJSはこれまでに800名以上のテュービンゲン大学の学生を受け入れて、日本研究の専門家をはじめ世界各地で活躍する有為の人材を輩出し続けています。

TCJSに相当する同志社大学の教育研究施設がテュービンゲン大学にあっても良いのではないかと、もし同志社大学が希望するのであれば協力を惜しみません、という当時のエングラウ学長の提案を受けて、当時の松岡敬学長がその申し出を重く受け止め、2017年度にE Uキャンパスが開設されたという訳です。

なお、松岡学長は、「ドイツ・キャンパス」とは命名しませんでした。「E Uキャンパス」と命名されたのは、この小さいキャンパスをドイツだけでなく、E U、ひいてはヨーロッパ全体との教育研究交流の拠点としたいという思いからです。

新島襄はテュービンゲン大学を知っていた！

校祖新島は、岩倉米欧使節団(1871年~73年)と二度目の米欧歴訪(1884年~85年)の教育機関の視察を経て、特にドイツに注目しました。以下の文書で、欧州諸国の中でドイツを筆頭に挙げています。

「時に余アンドヴァに在りて勤学せしが、徴(め)されて文部理事官随員の命を蒙(こうむ)り、(田中不二麿)理事官と共に北米中著名の大中小学校を巡視し、更に歐洲に赴き、独逸(ドイツ)、仏蘭西(フランス)、英蘭(イングランド)、瑞西(スイス)、阿蘭陀(オランダ)、丁抹(デンマーク)、露西亞(ロシア)等の諸国を経歴し、学校の組織、教育の制度等を始めとし、・・・、聊か之れを觀察講究するを得、茲に於いて愈々欧米文明の基礎は、国民の教化に在ることを確信し・・・」(同志社大学設立の旨意1888年)。

また、新島襄は、「キリスト教主義高等教育機関設立のために」(1884年5月、原文は英語)で、ドイツにはたくさんの大学があり、幾つかの著名な大学を挙げていますが、テュービンゲン大学を足利時代に創られた古い大学のひとつとして言及しています。

E Uキャンパスの概要

同志社E Uキャンパスは、2019年度より本格的な活用が始まりました。まず教育プログラムですが、2019年度春学期に、「ドイツ語・異文化理解E Uキャンパスプログラム」の第1期生を送りました。2020年には2期生を送ったのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、やむなく3週間で帰国しました。コロナ禍の2年間はオンラインでつなげて幾つかの科目を実施しました。昨年度(2022年度)の春にリベンジの時がやってきました。春学期に「ドイツ語・異文化理解E Uキャンパスプログラム」3期生を送り、秋学期には、「ヨーロッパ・スタディーズE Uキャンパスプログラム」の1期生を送り出しました。

次に研究交流について説明します。テュービンゲン大学との共催の国際シンポジウムを2017年度(@同志社大学)、以降、2018年度(@テュービンゲン大学)、2019年度(@同志社大学)、2022年度(@テュービンゲン大学)の4回にわたり交互に実施しました。テーマは、「グローバル化の新たな形、高齢化社会への挑戦、ダイバーシティを尊重する社会構

築、真の持続可能な開発とは」でした。

その他、同志社大学をチュービンゲン大学の方々に知っていただくための、「同志社ウィーク」というイベントを、原則として同志社EVEの期間に実施してきました。テーマは、法律、宇宙、赤ちゃん学、マンガ、SDGs、書道などです。特に両大学の学生諸君が中心になって企画運営したマンガ、SDGs、書道は好評でした。

E Uキャンパスの活動の概要は以上の通りです。

同志社大学とチュービンゲン大学の不思議な関係

同志社大学とチュービンゲン大学との関係には不思議なものが3つほどあります。今日はその2つをご紹介します。次のようなエピソードがE Uキャンパス設立に間接的に寄与したのではないかと考えています。

(1) ヘルマン・ハッセと新島襄

1つ目は、創立者新島襄とヘルマン・ハッセの出会いです(写真1、写真2)。新島襄は、第2回目の欧州訪問で1884年8月5日、イタリアからスイスに入国しました。翌日サン・ゴタル峠(写真3)を登坂中、心臓発作のため倒れホテルにて遺書を書きました(写真4)。その後奇跡的に健康を取り戻した新島は、バーゼル市内のキリスト教の団体であるバーゼル伝道会の「ミッション・ハウス」館長のヨハネス・ハッセ牧師を8月22日に訪ねました。彼は、ヘルマン・ハッセの父です。新島は1週間ほど「ミッション・ハウス」に滞在しました。ヨハネス・ハッセ牧師は当時7歳だった息子をはるばる東洋からやって来た新島に会わせました。ハッセにとって初めて出会った日本人が新島襄でした。新島はハッセに強烈な印象を与えたようです。ハッセの両親は新島をとてても可愛がったと、ハッセは後に感慨深く語ったそうです。

ハッセは、青年期、チュービンゲン大学近くの書店の見習い店員としての生活を送り、その後ドイツを代表する作家になりました(1946年、ノーベル文学賞受賞)。現在、ハッセが働いた書店の一角はハッセ記念館になっています。そのハッセ記念館の近くに新島が創立した大学の海外キャンパスが設置されたのです。ハッセと新島の出会いから133年後のことです。不思議な縁(ミステリアス・コネクテッドネス)を感じます。

(2) スピノザと同志社E Uキャンパス

With Face of Eternity, Everything is Relative

(永遠の価値の前では他の価値は相対的に低くかすんで見える)

この言葉は、チュービンゲン大学のエングラール学長が2019年2月のシンポジウム後のレセプションで、本学からの訪問団に対して紹介された17世紀オランダの哲学者スピノザの言葉です。「その心は、」とエングラール学長は続けました。

「同志社大学は、26年間にわたり、学内に『チュービンゲン大学同志社日本研究センター』を置いてくださり、その運営への支援を惜しみませんでした。『誠実さ』という『永遠の価値』を同志社大学は提供してくれたのです。それゆえ両大学の関係を極めて大切に思っています。京都の大学と関係を築くのならば他にも優秀な大学があるじゃないか(例えば京都大学など)、という学内の意見に対して、このようなスピノザの言葉で反論しています」とおっしゃいました。17世紀に生きたスピノザが、エングラール学長を通して、時空を超えて現代に生きる私たちに語りかけ、同志社E Uキャンパスの誕生をアシストしてくれたのではないのでしょうか。

同志社大学とチュービンゲン大学との間の2つの不思議なエピソードを紹介させていただきました。

まとめ 新島の夢と同志社E Uキャンパス

タイトルには、新島襄の夢と付けてあります。新島襄の夢が、このE Uキャンパスで実現されているのでしょうか。自画自賛かもしれませんが、私は、少なくともその一部は実現しつつあると思っています。その理由を説明します。

新島襄は明治初期の日本にとって理想的な社会の担い手としてどのような人を想定していたのでしょうか。新島は、自治自立の精神こそが明治の新しい日本を造るのに絶対に必要なものだと考えました。つまり自治自立の人民の養成が急務だと考えていました。

皆さんは、新島が1888年(明治21年)に書いた「同志社大学設立の旨意」が入学式で読まれたことを覚えておられますか。そこには以下の節があります。

「苟(いやしく)も立憲政体を百年に維持せんと欲せば、決して区々たる法律制度の上のみ依頼すべき者にあらず。・・・立憲政体を維持するは、智識あり、品行あり、自ら立ち、自ら治むるの人民たざれば能(あた)わず。」(『新島襄 教育宗教論集』岩波書店 2010年 32頁。)

ここで新島は、法律制度という「外側」が整っているだけではだめ。ひとりひとりの心の中に、智識と倫理観と自治自立の精神が宿ることが重要であると述べています。新島はそのような人物を養成するために同志社英学校を創立したのでした。

私は、ドイツ語・異文化理解E Uキャンパスプログラムの科目を担当しており、8月の初めにまとめの授業をするために神学部の小原克博先生とともにE Uキャンパスに行きます。その時、毎年、学生さんたちからE Uキャンパスプログラムに参加しての感想やコメントを聞く機会を持っています。そのコメントの中で最も多い感想は、「ドイツ人と一緒に生活することを通して、周りの空気を読んで発言するのではなく、自分の頭で考え、発言できるようになった」、「自分の頭で考えたことを堂々と表現できるようになった」、「自分の意見を表現することにおいて自信が持てるようになった」などのコメントです。付和雷同ではなく、空気を読むのではなく、自治自立の精神が身につけてきたというコメントを聞くとても嬉しく思います。

これらのコメントから、チュービンゲン大学に設置された同志社大学チュービンゲンE Uキャンパスにおいて、自治自立の精神を持つ人物の養成という新島の夢は、一定程度実現されているのではないかと思うわけでございます。

ここにおられる皆さん、同志社初の海外キャンパスであるE Uキャンパスで学び、自治自立の精神を身に付けるきっかけとしていただければ幸いです。新島襄の夢を皆さんに実現していただきたいと願っております。これにて拙い話を終わらせていただきます。最後までご清聴ありがとうございました。

お祈りいたします。

恵みに満ちたもう神様。

創立148年の同志社スピリット・ウィークのチャペル・アワーにおいて、話をする機会をいただきありがとうございました。

神様の不思議なお導きにより、6年前にドイツのチュービンゲンの地に、同志社E Uキャンパスが誕生することができました。その小さな歩みを祝福し、これまで同志社初の海外キャンパスであるE Uキャンパスを着実に育てていただきましたことを感謝いたします。E Uキャンパスの歩みのために日々誠心誠意尽力してくださっている両大学の関係者の努力をあなたが顧みてください。

E Uキャンパスに行って学ぶ学生のみならず、ここに居られるすべての学生の皆さんが、新島の夢を実現する器として成長させてください。

言い尽くせぬ感謝と願いを、主イエス・キリストのみ名によってお捧げいたします。アーメン

2023年11月21日 同志社スピリット・ウィーク秋学期
今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録

写真1 新島襄

(提供:同志社社史資料センター)

写真2 ヘルマン・ハッセ

(出典:ヘルマン・ハッセ著、芳賀壇訳、1953年、『戦争と平和』人文書院。)

写真3 サン・ゴタル峠(提供:田中竜哉氏)

写真4 サン・ゴタル峠の新島襄が遺書を書いたと思われるホテル(提供:田中竜哉氏)

※写真の表示はホームページでは省略します。